

会員研究業績リスト

(昭和48年3月～昭和50年2月末までに発表のもの)

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
麻生平八郎	論文	海運における多国籍企業	明大商論	昭49. 3
	ク	ドイツ交通政策の方向	ク	昭49.10
	ク	現代の海運政策の方向	「海運」	昭49.12
雨宮 洋司	論文	商船学校教育への提言	富山商船高専研究集録 No. 6	昭48. 3
	ク	学校教育における職業教育のあり方 (1)	「海運」No. 546	昭48. 3
	ク	商船学校教育の歴史的考察 (2)	ク No. 547	昭48. 4
	ク	能登における港湾開発の方向について	海事産業研究所報 No. 90	昭48. 9
	ク	海運企業の雇用管理の制度と特徴	海上労働科学研究所報 N o. 7	昭49. 3
	ク	船舶運航技術の技術論的考察	日本航海学会誌 No. 52	昭49.10
	ク	能登における地方港湾開発の課題	日本港湾経済学会誌 No. 12	昭49.10
	ク		成山堂書店	昭49. 9
	共著	「港湾流通」第10巻（港湾機能と情報コミュニケーションの基本的諸問題）		
荒木 智種	論文	港湾社会におけるコミュニケーションの研究	「港湾」	昭50. 2
	論文	A Study on Optimum Size of a City	北大工学部研究報告68号	昭48. 9
	ク	A Hypothesis of Conservation of Traffic Flow and its Application	「地域と交通」技報堂	昭48.10
	ク	NNWによる都市環境の評価に関する研究	土木学会28回年次学術講演集	昭48.10
	ク	道路除雪における目的関数の設定について	第11回日本道路会議論文集	昭48.11
	資料	都市と交通	「ニューフロンティア」 第10号	昭49. 6
	ク	工業高校でもできる土木計画学	土木学会高校教育	昭49. 8

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
伊坂 市助	論文	北上ダイナポリスを前提とした地域交通体系に関する研究	委員会誌3号	
	ク	土木計画の考え方に関する試論	土木学会29回年次学術講演集	昭49.10
	ク	土木計画の統合評価は可能か	土木学会誌59巻12号	昭49.11
	共著	土木工学ハンドブック	第9回土木計画学シンポジウム	昭50.1
	ク	土木計画数理	技報堂	昭49.11
	ク	地域と交通	「地域と交通」研究会	昭49.7
	論文	アダム・スマスの魅力	技報堂	昭48.10
	ク	同上(続)	関東学院大学「経済系」	昭49.5
	ク	カーフェリーとコンテナ専用列車	ク	昭50.3
	ク	海洋開発と沖縄海洋博	「P D M」	昭48.7
市来 清也	ク	物流近代化と港湾労働	「輸送展望」	昭48.7
	ク	沖縄の輸送事情	「港湾問題研究」	昭48.8
	書評	歐米の港湾労働(喜多村昌次郎著)	No.3	
	資料	最近の輸送動向「内航」	日通総研	昭48.9
	論文	鉱石資源の海上輸送と合理化の動向	「輸送展望」	昭48.12
	共著	国際取引ハンドブック	ク	
	資料	最近の輸送動向「内航」	ク	昭49.3
	共著	海運基本要項	中央経済社	
	書評	港湾運送事業法ノート(森山芳樹著)	「輸送展望」	昭49.6
	ク	港湾行政(和泉雄三著)	日本通運	昭49.10
伊藤 善市	ク	港湾流通(北見俊郎・喜多村昌次郎編)	「輸送展望」	昭48.5
	論文	流通経済構造の変革と港湾機能	ク	昭48.7
	ク	コンテナカーと輸送マニュアル(コンテナ輸送研究会編)	ク	昭49.12
	共訳	ミルス『都市の経済学』	「港湾」	昭50.2
	論文	都市機能分散の可能性	「輸送展望」	昭50.2
	ク	地域開発と日本経済		
	編著	『過密過疎への挑戦』	住宅新報社	昭48.11
			「E S P」	昭48.12
			「経済セミナー」	昭49.1
			学陽書房	昭49.1

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
稻垣 哲	論文	地域開発政策の再検討 The Shinkansen-Japan's Bullet Train	「地域開発」 「P H P」	昭49. 1 昭49. 7
	資料	国土利用法と開発政策 コンテナ流通機構について	「地域開発」 阪神外貿埠頭公団業務研究会	昭49. 8 昭48. 6
	ク	日本のコンテナターミナル施設	ク	昭48. 8
	ク	日本をめぐる最近の海運情勢並びに極東水域におけるフィーダー輸送の伸びと将来の予測について	ク	昭49. 6
	ク	最近の船社・港運業者の経営概要	ク	昭49. 10
	共著	莊園絵図の基礎的研究	三一書房	昭48. 8
奥富 敬之	論文	技術史研究の問題点 —医学史を中心に—	「民衆史研究」 230号 (日本医科大学) 文科研究誌 2号	昭48. 9
	ク	鎌倉幕府伊賀氏事件の周辺	ク	昭48. 10
	ク	律令医療制度の考察(2)	吉川弘文館	昭48. 10
	共著	史学論集、対外関係と政治文化第2卷	福村出版	昭49. 2
	ク	日本史の諸相	(日本医科大学) 文科研究誌 3号	昭49. 5
	論文	律令医療制度の研究(3)	「日本史研究」20号 日本港湾経済学会 年報 No. 12	昭49. 7
	ク	東久留米市の板碑	「日本史研究」20号	昭49. 8
	ク	日本中世の港湾 —和賀江島を中心として—	日本港湾経済学会 年報 No. 12	昭49. 10
	著書	安房白浜—古代編—	千葉県白浜町	昭50. 1
	共著	港湾流通	成山堂書店	昭49. 9
北見 俊郎	論文	港湾労働と港湾の全体制的諸問題	「港湾問題研究」 No. 2	昭48. 3
	ク	わが国における港湾管理運営の問題点と展望(上)	青山経営論集 Vol. 8, No. 1・2 合併号	昭48. 9
	ク	同 上(下)	同上Vol. 9, No. 4	昭49. 3
	ク	港湾の近代化と地域社会の基礎的課題	「港湾経済研究」 No. 11	昭48. 10
	ク	港湾運送業の再編成と課題	「流通設計」No.12	昭48. 12
	ク	港湾運送における機械化と近代化の	「港湾荷役」	昭49. 1

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
喜多村 昌次郎	論文	諸問題	Vol. 19, No. 1	
		港と「文化」の基本的関係と諸問題	「港湾」	昭49. 1
		港湾管理・運営の史的考察と構造的性格(上)	Vol. 51, No. 1 海事産業研究所報 No. 93	昭49. 3
		同 上(下)	同上, No. 94	昭49. 4
		港湾経営の理念と諸条件	同上, No. 95	昭49. 5
		都市と港湾経営・序説	同上, No. 97	昭49. 7
		港湾における「経営経済」と「公企業」の問題意識	同上, No. 99	昭49. 9
		ポート・オーソリティの形成と「港湾経営」	同上, No. 100	昭49. 10
		わが国港湾の近代化と「港湾経営」をめぐる諸問題	同上, No. 101	昭49. 11
		港湾荷役の諸問題と将来課題	「P. D. M.」 1974年9月号	昭49. 9
		「都市と港」の諸問題と課題—市民との交流を求めて—(その1)	「港湾」 Vol. 51, No. 9	昭49. 9
		同 上 (その2)	同上, Vol. 51, No. 11	昭49. 11
		ターミナルにおける人間と社会	青山経営論集 Vol. 19, No. 2-3 合併号	昭49. 11
		「港湾都市」への問題意識—港湾機能と都市機能をめぐって—	関東都市学会年報 No. 1	昭49. 9
		港湾労働の基本的諸問題と今後の課題	日本港湾協会	昭48. 4
		公私共同企業と埠頭経営	埠頭経営研究会	昭49. 3
		横浜ポート・オーソリティ研究 No.3	横浜市	昭48. 3
		小名浜港の港湾整備計画と港湾運送体系調査	福島県	昭49. 3
		大規模工業基地経営の諸問題と方向	埠頭経営研究会	昭49. 7
		National Economy and Distribution System Industry	K. L. F. News.	昭49. 11
	著書	欧米の港湾労働	港湾総合研究所	昭48. 11
	共著	港湾流通	成山堂書店	昭49. 9

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
神代 方雅	論文	労働協約の一般的拘束力と港湾労働	「港湾問題研究」	昭48. 8
	ク	港湾労働組織と使用者団体	「海運」	昭48.10
	ク	港湾労働問題の現状と課題	「港湾荷役」	昭49. 5
	ク	港湾労働をめぐる諸問題	京浜外貿埠頭公団	昭49. 6
	資料	公私共同企業体による埠頭経営—その基本的諸問題と課題—	埠頭経営研究会	昭48. 3
	ク	世界主要港における管理運営状況調査(2)(第2部第1章)	東京都	昭48. 6
	ク	小名浜港の港湾整備計画と港湾運営体系調査(第1章第2節, 第4章)	福島県	昭48. 9
	ク	横浜ポート・オーソリティの研究(3) —東京湾問題と横浜港—(第2章第3節, 第3章第2節)	横浜市	昭48. 9
	ク	横浜港湾労働会館建設構想とその課題	ク	昭49. 3
	ク	大規模工業基地港湾経営の諸問題と方向	埠頭経営研究会	昭49. 7
	ク	横浜港と横浜(市民)経済	横浜市	昭49. 9
小林 照夫	論文	海運流通の体系化と地方港湾の諸問題	「港湾経済研究」 No. 11	昭48.10
	ク	国土利用の齊合化と地方港湾	「港湾経済研究」 No. 12	昭49.10
	論文	1960年代の「近代化」理論の課題と方法	関東学院大学文学部紀要	昭49. 7
酒井正三郎 佐藤 元重	資料	「地方港湾の役割と課題」—日本港湾経済学会の報告から—	関東学院大学文学部紀要	昭49.12
	論文	三崎漁港の役割と課題(共同研究)	日本港湾経済学会編「港湾経済研究」 No. 12	昭49.10
	著書	現代大都市論 I, II	同文館	昭48.10
佐藤 元重	論文	日本海地域の歴史的役割	「地理」18巻5号	昭48. 5
	ク	新潟港の諸問題と将来課題	「港湾経済研究」 No. 11	昭48.11
	ク	新潟インターチェンジ周辺の経済地理的考察	新潟大経済論集16 巻3号	昭49. 3
	論文	日本海沿岸地帯における新潟県	新潟経済社会リサ	昭49. 3

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
篠原 陽一	論文	ク 高速交通網の発達が日本海都市に及ぼす影響 ク 新潟市における工業の現況 ク 北陸地域の物流近代化への方向 ク 産業労働問題研究序論	一チセンター月報 No. 6 日本都市学会年報 8号 新潟市商工労働部 「P D M」 12月号 海上労働科学研究所年報 No. 6	昭49. 6 昭49. 11 昭49. 12 昭48. 3
		ク 海運産業の賃金決定機構と産業別労働組合	「賃金と社会保障」 No. 623	昭48. 4
		資料 船員福祉に関する調査 (1)	海上労働科学研究所	昭48. 3
		ク 船員福祉に関する調査 (2)	海上労働科学研究所	昭49. 3
		ク 海運企業の雇用管理の実態	海上労働科学研究所年報 No. 7	昭49. 3
		論文 仕組船とは	船員しんぶん	昭48. 10
		ク 海運産業の発達と海員組合の政策について	交通学研究1973年研究年報	昭48. 11
		ク 海運産業における賃金体系の変遷と問題点	「賃金と社会保障」 No. 657	昭49. 9
		ク 戦後日本の海運政策の段階と性格	「海運経済研究」 No. 8	昭49. 11
		ク 右翼組合路線の破綻と克服の一過程	社会政策学会年報 No. 18	昭49. 10
	共著	「国家資本の理論」第三章 海運港湾と国家資本	大月書店	昭49. 11
		論文 港湾における国家資本の考察	「経済研究」	昭50. 2
		共著 「港湾流通」第2章 港湾流通と市民生活	成山堂書店	昭49. 9
		論文 港湾における公共性の再検討	海運経済研究 7号	昭48. 10
		書評 飯田秀雄『海陸複合輸送の研究』	ク 8号	昭49. 10
柴田 悅子	共著	日本の交通問題 第8章 内航海運	ミネルヴァ	昭48. 5
	論文	港湾労働法一部改正の背景と若干の問題点	海事産業研究所報	昭48. 7
	ク	「港湾労働法一部改正」の本質につ	「労働農民運動」	昭48. 9

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
東海林 滋	論文	いて 港湾運送事業における公共の利益 —歐米の法的先例をたずねて—	「近代港湾」第6卷第6号	昭49. 6
高見玄一郎	論文	海貨通関業務の現状分析	日本情報処理開発センター	昭49. 3
	ク	データベース輸出情報システムの概念	港湾研「港湾と貿易」	昭49. 5
	ク	バンクーバーの Labour System	港湾研「港湾と貿易」	昭49.10
	ク	外国貿易とわが国港湾の当面する諸問題	日本荷主協会会報	昭49.12
	ク	輸入貨物及び輸入通関業務のフローに関する実態報告書	日本情報処理開発センター	昭50. 2
棚橋 貞明	資料	海上コンテナ、コンテナ船、コンテナ埠頭とその荷役	「生産と運搬」	昭49.10
千須和 富士夫	論文	港湾におけるレジャー機能の発展と地域開発	「港湾経済研究」No. 11	昭48.11
	共著	輸出貨物と海貨通関フローの報告書	同名書	昭48. 3
	ク	海貨通関業務の現状分析(部分分担)	総合貿易情報システム調査報告書(III)	昭49. 3
筒浦 明	論文	稚内市を中心とする道北地域の土地利用	開発論集(北海学園大)	昭48. 3
寺谷 武明	論文	第1次大戦期の鉄鋼政策(安藤良雄編「日本経済政策史論」上巻)	東大出版会	昭48. 5
土居 靖範	共著	交通労働者	「現代交通の理論と政策」日本評論社	昭50. 1
	論文	内航海運の動態と構造—内航海運業の再編成に関する一考察—	「海運経済研究」第7号	昭48.10
	ク	港湾労働者の労働時間に関する一考察—長時間労働の実態と時間短縮の展望—	「港湾経済研究」No. 11	昭48.10
	ク	わが国の内航海運業に関する一考察	「海事産業研究所報」No. 91	昭49. 1
	ク	港湾労働者の時間短縮闘争	「労働農民運動」	昭49. 2

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
富田 功	資料	世界主要湾港における管理運営状況調査(その2) 第2部第8章	東京都港湾局	昭48. 3
	〃	わが国のインランド・デボの現況、第3章	港湾総合研究所	昭48. 4
		大規模工業基地港湾経営の諸問題と方向、第II章第4節	埠頭経営研究会	昭49. 7
	〃	内航海運の構造変化と今後の課題	「ROAD」	昭49. 3
	〃	長距離フェリー再編成の動向	「日本海事新聞」	昭49.10
	書評	北見・喜多村編「港湾流通」(港湾研究シリーズ第10巻)	「海運」	昭49.12
	論文	地方港湾における管理・運営の諸問題と課題一小名浜港との関連について	「港湾経済研究」No. 12	昭49.10
	〃	交通運賃としての港湾料金問題	「運輸と経済」	昭49.11
	〃	現代港湾管理・運営の展望と港湾労働福利厚生施設の問題性	「海事産業研究所報」No. 102	昭49.12
	資料	公私共同企業体による埠頭経営一その基本的諸問題と課題一	埠頭経営研究会	昭48. 3
	〃	世界主要港湾概況	東京都	昭48. 3
	〃	世界主要港における管理運営状況調査(2)(第2章第2節、第9節)	東京都	昭48. 6
	〃	小名浜港の港湾整備計画と港湾運営体系調査(第1章、第3節)	福島県	昭48. 9
	〃	横浜ポート・オーソリティの研究(3) —東京湾問題と横浜港—(第2章第2節、第3章第1節)	横浜市	昭48. 9
	〃	横浜港湾労働会館建設構想とその課題	〃	昭49. 3
	書評	横浜港と横浜(市民)経済 Dochers-The impact of industrial changes	「港湾経済研究」No. 11	昭49. 9 昭48.11
永瀬 栄治	資料	港の実態	北海道部会	昭42. 2
	〃	港湾投資について	〃	昭43. 5
	〃	室蘭港の現状と課題	室蘭青年会議所	昭44. 2
	〃	70年代の港まちづくり	室蘭会議所	昭45. 2
	〃	港湾産業	〃	昭46. 1

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
永野 炳紀	資料	輸送システムの変革と在来埠頭の再開発		昭47.10
	ク	広域生活圏と流通団地	室蘭市	昭50. 1
	論文	後進地域における工業港の形成と展開	「仙台大学紀要」第5集	昭48.10
	共著	小名浜港の工業港への発展過程に関する考察	福島県土木部	昭49. 3
	ク	大規模工業基地港湾の特性	埠頭経営研究会	昭49. 7
日高 広範	資料	東南アジアにおける都市と都市問題	「新地理」第20巻第2号	昭48. 9
	論文	苅田港の成立とその発展	「交通経済論集」No. 5	昭48. 9
	ク	北九州市若松区の貨物電車	「地理の集い」No. 4	昭49. 5
	ク	苅田港の現状と開発計画	「港湾経済研究」No. 12	昭49.10
	論文	海運実務理論	「船長コース」海文堂	昭49. 1 ~12
古川哲次郎	ク	海運業における原価管理の研究	海事産業研究所報	昭48. 7
	ク	内航海運における需要構造の分析	「海運」	昭48.11
	ク	内航	「運輸と経済」	昭50. 2
	著書	海運実務の基礎理論	海文堂出版	昭50. 2
	共著	大都市周辺都市行政に関する研究, 神奈川県の部(正篇)	国土計画協会	昭48. 3
征 幸雄	ク	同 前 (続篇)	ク	昭49. 3
	ク	同 前 (続々篇)	ク	昭50. 2
	論文	大分港発展史(2)	大分大学研究所報8号	昭49. 3
三村 真人	共著	国際取引ハンドブック	中央経済社	昭49. 3
	書評	船舶の衝突と海上保険	「港湾経済研究」No. 11	昭48.10
三木 植彦	ク	発展途上国における港湾の諸問題	同上 No. 12	昭49.10
	資料	神戸港における船舶動静に伴う情報伝達網の現状調査と解析(II)	神戸市港湾局	昭48. 5
	論文	O Rによる鉄鉱石専用船の積荷役シーケンスの決定法	日本航海学会誌	昭48. 7

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
山上 徹	論文	海上輸送におけるシステムアプローチ	海技通信(海技大 学校)	昭49.11
	〃	港湾問題におけるシミュレーション モデルの利用(I)	海事産業研究所報	昭50. 1
	論文	わが国港湾管理と公企業の課題	商学集誌 第43巻第2号	昭48. 9
	〃	わが国港湾の「理念」と港湾管理の 課題	交通経済論集 第5号	昭48. 9
	〃	海港立地について	商学集誌 第44巻第1号	昭49. 6
	〃	地方港湾における管理・運営の諸問 題と課題	「港湾経済研究」 No. 12	昭49.10
	〃	港湾機能と公共性の一考察	商学集誌 第44巻合併号	昭49.12
	共著	横浜ポート・オーソリティの研究 (その3) 第2章, 第1節	横浜市港湾局	昭48. 3
	〃	小名浜港の港湾整備計画と港湾運営 体系調査(第1章, 第2節1)	福島県土木部	昭49. 3
	書評	Des Standortsproblem der Seehäf fen	「港湾経済研究」 No. 11	昭48.10
山田 源次	論文	神戸港の滞貨に思う	「神戸港」	昭49. 9
山村 学	共著	資源再生化に挑む流通システム化 港湾流通	日本実業出版社	昭49. 6
	〃	現代交通の理論と政策	成山堂書店	昭49. 9
	論文	鉄鋼加工業界における物流合理化	日本評論社	昭50. 1
	〃	沖縄の経済開発と物流機構	「流通設計」 Vol. 35, 8月号	昭48. 8
	〃	日本鉄鋼業の発展と内航海運	(財)流研「流通情 報」No. 62	昭48. 9
	〃	財務諸表からみた鉄鋼専門埠頭	「海運経済研究」 No. 7	昭48.10
	〃	首都圏における国鉄の貨物輸送	「港湾経済研究」 No. 11	昭48.10
	〃	屑鉄再生資源化問題に関する一考察	「Road」 No. 5~2	昭49. 2
	書評	廣岡, 中西編「新版・日本の交通問	「スチールデザイ ン」 No. 141 「Road」 Vol. 4,	昭50. 2 昭48. 7

会員研究業績リスト

153

氏名	区分	発表テーマ	発表個所	発表年月
山本 長英	書評	題」 大塚秀夫著「物流事業一明日への展望」	No. 6 「Road」 Vol. 5, No. 5	昭49. 7
		「運輸省編「運輸白書」	「Road」 Vol. 6, No. 2	昭50. 2
	資料	再生資源物流システム改善報告書	通産省	昭48. 3
		東京港における港湾産業動向調査	東京都港湾局	昭48. 3
		沖縄県流通近代政策策定基礎調査	沖縄県庁	昭49. 2
		交通基本フレーム作成のための基礎調査	東京都首都整備局	昭49. 3
		鋼材流通システム化マニュアル	通産省	昭49. 3
		都市内物流改善に関する研究調査	「」	昭49. 3
		港湾荷役に関する専門用語	「流通設計」 Vol. 5, No. 6	昭49. 6
		ハンブルグ港の労働事情	「港湾経済研究」 No. 12	昭49. 10
米山 謙	論文	物価水準変動と海運企業経営	「海外海事研究」	昭48. 10
		発展途上国の経済発展と港湾の役割	「港湾経済研究」 No. 12	昭49. 10

学 会 記 錄

1. 学会記事

1. 第13回全国大会（長崎港）概要

昭和49年度の第13回全国大会は、長崎県土木部港湾課、長崎県東京事務所、ならびに長崎大学、国際経済大学および長崎造船所等地元関係者各位の御尽力により、10月4日（見学会、理事会）、10月5日（研究報告会、総会、懇親会）、10月6日（研究報告会、シンポジューム）の間、長崎市民会館を中心にして開催され、盛大裡に終了した（下記、大会総プログラムご参照）。共通論題は、「地方港湾の役割と課題」で下記のような8つのテーマにもとづき10名の研究発表が行なわれた。また自由論題も下記のよう5名による研究発表がみられた（これらの研究発表の内容は各々学会年報、『港湾経済研究』No. 12、昭和49年、に納められている）。また共通論題を中心とするシンポジュームも活潑に行なわれ、昭和48年度の共通論題であった「港湾機能の近代化と地域経済・社会」とある意味で共通する問題意識でもあり、充実した討論をもつことができた。

見学会は開港400年の歴史をもつ長崎港と市内の史跡を中心に行なわれたが、天候にもめぐまれ70名近い参加者を得て盛会であった。研究報告会等は地元関係を含め當時100名以上の出席者で、総会においては従来の正会員会費1,500円の2,000円値上げが承認された外、昭和50年大会開催地の千葉港案も認められた。諸物価の高騰がはげしい中で、学会財政もきびしさをむかえている折から、盛大かつ有意義に昭和49年度の全国大会がつつがなく終了したことは会員各位のご尽力と、とくに開催地の上記関係各位の絶大なご協力によるためと改めて深謝の意を表する次第である。

大会総プログラム

月 日	時 間	行 事 内 容	会 場	場 所
10/4 (金)	13:30	見学会（長崎港及び長崎史跡）	集合地（大波止ターミナルビルロビー）	長崎市元船町 17-1
	18:00 ~ 20:00	理事会	長崎ハイツホテル 2 階 T E L (0958) 22-3156	長崎市興善町 3-19 ☎ 850
	9:30 ~ 12:00	開 会		
	9:30 ~	研究報告会（自由論題） 午前の部		

10/5 (土)	12:00	記念撮影	長崎市民会館 TEL (0958) 22-1400	※ 850 長崎市魚の町 5-1
	13:00	昼食・休憩		
	13:00	研究報告会(自由論題)		
	14:40	午後の部		
	14:40	総会		
	15:40	研究報告会(共通論題)		
	17:00	(1日目午後の部)		
	18:00	懇親会		
	19:30			
10/6 (日)	9:30	研究報告会(共通論題)	長崎ハイツホテル2 階 TEL (0958) 22-3156	(前出)
	12:10	(2日目午前の部)		
	12:10	昼食・休憩		
	13:10	研究報告会(共通論題)		
	14:40	(2日目午後の部)		
	14:40	シンポジューム		
	17:00	閉会		

研究報告会プログラム(10月5日~6日)

(10/5) 自由論題(報告40分 質問10分)

① 9:30
 ハンブルグ港の労働事情……………(日本医科大学) 奥富 敬之
 10:20

② 10:20
 ポート・サービス業務の経営……………(三宝製作所) 松岡 英郎
 11:10

③ 11:10 発展途上国の経済発展と港湾の役割
 12:00 一特にインドの経済発展と港湾――…(金沢経済大学) 米山 譲

* 12:00
 記念撮影・昼食・休憩
 13:00

④ 13:00
 ハンブルグ港の労働事情……………(大東港運KK) 山本 長英
 13:50

⑤ 13:50 「需要調整型」港湾体系への課題
 14:40 一港湾機能の転換と港湾計画――…(港湾総合研究所) 鈴木 晓

※ 14:40
 ↴ 総 会
 15:40

共通論題（地方港湾の役割と課題）（報告40分、質問及び討論はシンポジュームにて行う。）

- ① 15:40 地方港湾における港湾機能の変遷
 ↴ 16:20 一長崎港の場合……………（長崎大学）河地 貫一
- ② 16:20
 ↴ 17:00 斎田港の現状と開発計画……………（筑豊高校）日高 広範

※ 18:00
 ↴ 懇 親 会
 19:30

(10/6) 共通論題（続）

- ③ 9:30
 ↴ 10:10 舞鶴港の問題点と地域開発……………（地域計画建築研究所）金井 万造
- ④ 10:10
 ↴ 10:50 三崎漁港の機能と課題……………（関東学院大学）小林 照夫
（関東学院大学）内藤 辰美
- ⑤ 10:50
 ↴ 11:30 能登における地方港湾開発の課題
（富山商船高等専門学校）雨宮 洋司
- ⑥ 11:30 地方港湾における管理・運営の諸問題と課題
 ↴ 12:10 一小名浜港との関連においてー……………（港湾総合研究所）富田 功
（日本大学）山上 徹

※ 12:10
 ↴ 昼 食・休 憩
 13:10

- ⑦ 13:10
 ↴ 13:50 内貿流通拠点港湾の概念と課題……………（港湾経済研究所）高見玄一郎
- ⑧ 13:50
 ↴ 14:30 国土利用の齊合化と地方港湾……………（小樽市港湾部）神代 方雅

※ 14:40
 ↴ シンポジューム
 17:00

2. 部会活動状況

編集の都合上、各部会からの活動状況の詳報をうることができなかつたので、4月26日の常任理事会に報告した部会活動の状況（アンケートによる集約）をもって代えることとする。なお昭和49年度の部会活動状況詳細については後日あらためて報告するものとする。

① 北海道部会

昭和49年内、函館にて部会大会を開催、昭和50年4月理事会開催

② 関東部会

昭和49年8月10日（土）に「新しい経済の動向と港湾」と題して、国土庁今野修平氏の研究発表、また50年4月26日（土）には、東海大教授東寿氏の「物価問題と港湾の役割」と（財）港湾労働経済研究所富田功氏の「港湾と物価問題への料金の理論的アプローチ」についてそれぞれ研究発表された。また部会活動に際しては本年度も日本港湾協会と埠頭経営研究会に種々お世話になった。

なお、ここでささらに特記しなければならないのは、沖縄県から当部会に講師派遣依頼があったことである。本件は学会本部と相談の上、早速東・北見両副会長に渡沖してもらった。

③ 関西部会

昭和50年2月「神戸港湾労働訓練センターについて」訓練協会宮本専務理事、「ロッテルダム港の港湾労働学校の実情」神戸大学、山本泰督氏

「港湾経済研究」総目次

1. 1963年 (No. 1) (部数なし)

本邦戦時港湾施策	矢野 剛
港湾財政の問題点	柴田 銀次郎
港湾設備の増強と地域開発	伊坂 市助
港湾における新しい労働管理の概念	高見 玄一郎
港湾運送業の現状	松本 清
衣浦港の交通	松浦 茂治
港湾経済の本質	北見 俊郎
港湾施設の与えた損害に対する船主の賠償責任と海上保険	今泉 敬忠

「イギリス主要港湾に関する調査委員会報告書」	中西 瞳
「神戸港における港湾荷役経済の研究」	寺谷 武明

2. 1964年 (No. 2) 「港湾投資の諸問題」(部数なし)

長期経済計画における港湾投資額の推計	加納 治郎
摩耶ふ頭の建設と運営	岸 孝雄
公共投資と港湾経済	北見 俊郎
イギリスにおける港湾諸料金の徴収制度と問題点	中西 瞳
ヨーロッパの石油港湾	浮穴 和俊
港湾労働対策への一提案	柴田 銀次郎
港湾労働の課題	河越 重任
船積み月末集中の原因とその対策	高村 忠也
国際コンテナーの諸問題	宮野 武雄

北見俊郎著「アジア経済の発展と港湾」	中西 瞳
北海道立総合経済研究所編「北海道の港湾荷役労働」	寺谷 武明
同 上「港湾労働」	北海道立総合経済研究所

3. 1965年 (No. 3) 「経済発展と港湾経営」(部数なし)

港湾のもたらす経済的利益の分析	柴田 銀次郎
港湾経営の「理念」と問題性	北見 俊郎
港湾機能の地域的問題点	今野 修平

国際収支における港湾経費改善のための理論的考察	中 西 陸
港湾資産評価とその問題点	杉 沢 新 一
矢野剛著「港湾経済の研究」	寺 谷 武 明
海運系新論集刊行会編「海運と港湾の新しい発展のために」・織 田 政 夫	
向井梅次著「港湾の管理開発」	喜多村 昌次郎
喜多村昌次郎著「港湾労働の構造と変動」	徳 田 欣 次
宮崎茂一著「港湾計画」	川 崎 芳 一
P. C. Omtvedt;	
Report on the Profitability of Port Investments	中 西 陸
J. Bird;	
The Major Seaports of the United Kingdom	北 見 俊 郎
4. 1968年 (No. 4) 「地域開発と港湾」(部数若干あり、送料実費とも¥800)	
後進的地域開発と港湾機能	武 山 弘
港湾による地域開発問題について	田 中 文 信
港湾機能と経済発展	北 見 俊 郎
——地域開発に関連して——	
東北開発と野蒜築港	寺 谷 武 明
——明治前期港湾の一事例——	
神奈川県の第3次総合開発計画と新しい港湾の計画理論	高 見 玄一郎
港湾における都市再開発の問題	今 野 修 平
——東京港における都市再開発を例として——	
港湾労働の基調	喜多村 昌次郎
——横浜港における労働力移動の素描——	
港湾労働の近代化条件について	徳 田 欣 次
港湾の最適投資基準	是 常 福 治
——神戸港における測定の一例——	
名古屋港発展史	松 浦 茂 治
——昭和13—32年の20か年について——	
港湾の物的流通費について	中 西 陸
パレット、フォークリフトの諸問題	宮 野 武 雄
イギリス戦時港湾施策	矢 野 剛
東京湾における広域港湾計画に対する一指針	奥 今 村 武 修 正 平
横浜港施設改善に関する日本損害保険協会	

からの要望について……………今 泉 敬 忠

Colonel R. B. Oram ;

Cargo Handling and the Modern Port……………松 木 俊 武
Charles P. Larrowe ;

Shape-up and Hiring Hall……………山 本 泰 督
高見玄一郎著「港湾労務管理の実務」……………徳 田 欣 次
松宮 賦著「港湾の財政・経営のあり方」……………柴 田 悅 子
横浜市港湾局編

「横浜港における港湾労働者の実態と住宅事情」……………和 泉 雄 三
新潟臨港海陸運送株式会社編著「創業六十年史」……………小 林 寿 夫

5. 1967年 (No. 5) 「輸送の近代化と港湾」・「日本海沿岸の港湾の諸問題」
(部数若干あり, 送料実費とも¥800)

輸送の近代化と臨港上屋の運営……………	松 本 清
港湾業務の合理化と海運……………	岡 庭 博
流通近代化とコンテナリゼーション……………	高 見 玄一郎
物的流通の近代化と港湾……………	斎 藤 公 助
「輸送の近代化」と全港湾輸送体制……………	北 見 俊 郎
経済開発と日本海沿岸の港湾……………	佐 藤 元 重
新潟臨海埠頭の形成とその特性……………	小 林 寿 夫
小樽港の現状と課題……………	神 代 方 雅
港湾施設利用の問題点……………	今 井 修 平
港湾原単位算定における問題点……………	野 上 洋 二郎
港湾労働法の施行をめぐる諸問題……………	杉 沢 新 一
後進島地域経済発展の転型と港湾機能……………	大 森 秀 雄
砂利類の海上輸送増大化傾向について……………	武 山 弘 弘
わが国における運河発達の特性……………	棚 橋 貞 明
	柾 幸 雄

住田正二著「港湾運送と港湾管理の基礎理論」……………	佐々木 高 志
中西陸著「港湾流通経済の分析」……………	河 西 稔
港湾産業研究会編「港湾産業の発展のために」……………	和 泉 雄 三
Docks and Harbours Act 1966……………	河 越 重 任
V. H. Jenson; Hiring of Dock Workers……………	織 田 政 夫

6. 1968年 (No. 6) (部数若干あり, 送料実費とも¥800)

港湾の近代化と運送の機械化	和泉雄三
都市化と港湾の近代化	今野修平
苫小牧港における専用船の実態	松沢太郎
港湾の経済的性格に関して	柴田悦子
ターミナル・オペレーションの経営的基礎	喜多村昌次郎

——米国主要港との比較において——

地方公営企業としての港湾整備事業	細野日出男
港湾とシティ・プランの基本論	神代方雅
貨物輸送史上における港湾	宮野武雄
未来学成立の可能性	本間幸作

——港湾論に関連づけて——

日本港運協会編「日本港湾運送業史」	寺谷明
松本好雄著『コンテナの輸送実務』	松岡英郎
喜多村昌次郎著「輸送革新と港湾」	玉井克輔
北見俊郎著「港湾論」	糀幸雄
B. Chinitz; Freight and the Metropolis	武山弘
T. A. Smith; A Functional Analysis of the Ocean Port	山本泰督

7. 1969年 (No. 7) 「大都市港湾の諸問題と将来」

(部数若干あり, 送料実費とも¥800)

大阪港の貨物流通とその問題点	柴田悦子
大都市港湾としての東京港の問題点	今野修平
広域港湾論, 主としてオペレーションの観点から	高見玄一郎
大都市港湾の問題点と将来	北見俊郎
港湾運送機能合理化の考察	宮地光之
海運流通の齊合性	神代方雅
港湾の近代化と「制度」の問題	佐々木高志
港湾労働災害に関する責任の所在についての考察	玉井克輔

——特に船内荷役労働について——

大阪市港湾局編「大阪港史」	寺谷明
栗林商会労働組合編「栗林労働史」	喜多村昌次郎
神戸市企画局調査部編「広域港湾の開発と発展」	糀幸雄

港湾産業研究会編「変革期の港湾産業」.....	松 橋 幸 一
Dipl. Ing. Gustav Haussmann;	
Transcontainer-Umschlag.....	荒 木 智 種
Maritime Cargo Transportation Conference N. A. S;	
San Francisco Port Study.....	千須和 富士夫

8. 1970年 (No. 8) 「流通革新と埠頭経営」(成山堂発行, 定価1250円, 部数あり)

欧米のポート・オーソリティとわが国の 港湾の管理問題.....	矢 野 剛
自由港の復興.....	柴 田 銀次郎
日本港湾におけるターミナルオペレーターの論理.....	東 寿
広域港湾と埠頭経営.....	喜多村 昌次郎
ターミナルオペレーションと公共性の経済的意味.....	千須和 富士夫
「流通革新」と「港湾経営」の基本問題.....	北 見 俊郎
港湾における情報の研究.....	荒 木 智 種
港湾労働者の供給側面について.....	篠 原 陽 一
労務管理に見る港湾荷役企業近代化について.....	玉 井 克 輔
港湾運送事業料金と港湾運送近代化基金について.....	山 本 長 英
海運流通の齊合性(そのⅡ, 海運流通齊合の方向).....	神 代 方 雅
湾域高速鉄道の方向.....	浅 葉 尚 一
穀物サイロにおける内部流通の現象と 均一排出装置について.....	桜 井 正

港湾産業研究会編「輸送革新と港湾産業」.....	柴 田 悅 子
新潟県商工労働部編「港湾労働者実態調査結果報告」.....	寺 谷 武 明
R. O. Gross; Towards an Economic Appraisal of Port Investment.....	東 海 林 澤
National Ports Council; A Comparison of the cost of Continental and United Kingdom Ports.....	織 田 政 夫

9. 1971年 (No. 9) 「現代港湾の諸問題」(成山堂発行, 定価3000円, 部数あり)

公企業経営としての港湾問題.....	東 寿
港湾と港湾運送—港湾機能拡大と変革の基礎.....	喜多村 昌次郎
広域港湾における港運事業の近代化について.....	山 本 長 英
東京湾港湾取扱い貨物量の適正化と港湾管理問題.....	千須和 富士夫

港湾広域化問題の一考察	柴田悦子
巨大都市化と広域港湾問題	今野修平
港湾行政の近代化	和泉雄三
広域港湾と港湾経営の本質的課題	北見俊郎
明治時代の港湾と鉄道	宮野武雄
わが国における倉庫ならびに倉庫業の史的発展	斎藤公助
太平洋戦争下における港湾政策の意義	寺谷武明
港湾における賃労働と荷役業の成立と展開	
——日本港湾労働の一研究として——	玉井克輔
港湾の油濁損害に関する一考察	今泉敬忠
工業港における埠頭利用の問題点	今野修為
港湾における言論の自由	永野平紀
港湾産業と鉄鋼産業 ——その系列化傾向と	荒木智種
支配構造的一面について——	山村学
北海道における工業開発と港湾の課題	松沢太郎
海運流通の齊合性(III)	
——資本生産性からみた齊合性の追求——	神代方雅
イギリス絶対王政下にみる港湾と海運(I)	長島秀夫
喜多村昌次郎著「港湾産業」	小林照夫
北見俊郎著「港湾総論」	松橋幸一
欧米港湾労働事情研究調査団編著「欧米の港湾」	山本和夫
J. Mondalshi; "Zegluga W Gospodarce Japonu 1964"	市川勝一
William L. Grossman; "Ocean Freight Rates"	山本泰督
A. H. J. Bown "Port Economics"	富田功
	山上徹

10. 1972年(No. 10) 「輸送システムの変革と港湾」

(成山堂発行, 定価1,800円, 部数あり)

輸送システムの変革と港湾の変貌	今野修平
輸送システムの変革と港湾運送業の体制的諸問題	北見俊郎
外航定期貨物輸送船における輸送システムの変革と	
港湾運送業の再編成	市川勝一
輸送システムの変革と新しい公共財概念	東寿
フェリー運航と在来埠頭の再開発	松沢太郎

輸送システムの発展とターミナルオペレーションの

変化 千須和 富士夫

港湾および港湾事業の経済的性質 田 中 文 信

港湾運送業の直面する問題点と背景 宮 地 光 之

カーフェリー輸送と港湾 市 来 清 也

道央海運流通と広域港湾 神 代 方 雅

上屋戸前受制以後の変化について 田 中 省 三

ポートコンピュータへの一観点 三 木 横 彦

輸送システムの変革と在来埠頭の再開発 永 瀬 栄 治

寺谷武明著「日本港湾史論序説」 柴 田 悅 子

柴田悦子著「港湾經濟」 祇 幸 雄

東京港港湾問題研究会「港湾問題研究」 斎 藤 圭 太 郎

港湾産業研究会編「港湾産業の危機と発展」 鈴 木 晓

市川猛雄著「港湾運送事業法論」 山 上 徹

Hamburger Hafen Jahrbuch, 1970 荒 木 智 種

Ports of the World 1972, Twenty-fifth Edition 松 木 俊 武

Proceedings of the Seventh Conference, The International

Association of Ports and Harbors, 1971. 12 富 田 功

11. 1973 (No. 11) 「港湾と地域經濟・社会」

(成山堂発行, 定価 2,500 円, 部数あり)

港湾の「近代化」と「地域社会」の基礎的課題 北 見 俊 郎

港湾行政近代化と地域 和 泉 雄 三

港湾の外部経済効果に関する定量分析 岡 崎 不二男

港湾機能と地域開発 徳 田 欣 次

海運流通の体系化と地域港湾の諸問題 神 代 方 雅

新潟港の諸問題と将来課題 佐 藤 元 重

名古屋貿易業界と名古屋港 菅 沼 澄

那覇港の現状と方向に関する一考察 山 内 盛 弘

わが国における海上コンテナ貨物流動の実態について 棚 橋 貞 明

港湾におけるレジャー機能の展開と地域開発 千須和 富士夫

港湾労働組合形成期の港湾争議 玉 井 克 輔

CTS建設をめぐって 松 岡 英 郎

公共埠頭に於ける港湾労働の近代化と福利

- 厚生施設について 市川 勝一
 財務諸表からみた鉄鋼専門埠頭 山村 学
 港湾労働者の労働時間に関する一考察 土居 靖範

- 和泉雄三著「港湾行政」 鈴木 晓
 今泉敬忠・坪井昭彦共訳「船舶の衝突と海上保険」 三村 真人
 Seaports and Seaport Terminals 東海林 滋
 Transport and Distribution 織田 政夫
 The impact of industrial change 富田 功
 Des Standortsproblem der Seehäfen 山上 徹

12. 1974 (No. 12) 「地方港湾の役割と課題」

(成山堂発行, 定価 2,500円, 部数あり)

地方港湾における港湾機能の変遷

- 長崎港の場合 河地 貢一
 斎田港の現状と開発計画 日高 広範
 舞鶴港の問題点と地域開発 金井 萬造
 三崎漁港の機能と課題 小林 照夫
 内藤 辰美
 能登における地方港湾開発の課題 雨宮 洋司

地方港湾における管理・運営の諸問題と課題

- 小名浜港との関連において 富田 功
 山上 徹

- 内貿流通拠点港湾の概念と課題 高見 玄一郎

- 国土利用の齊合化と地方港湾 神代 方雅

- 日本中世の港湾——和賀江島を中心として 奥富 敬之

- ポート・サービスにおける2つの形態 松岡 英郎

発展途上国の経済発展と港湾の役割

- 特にインドの経済発展と港湾 米山 譲

「需要調整型」港湾体系への課題

- 港湾機能の転換と港湾投資 鈴木 晓

- ハンブルグ港の労働事情 山本 長英

- 北見・喜多村編「港湾流通」 市来 清也

- 喜多村昌次郎著「欧米の港湾労働」 玉井 克輔

- 秋山・佐藤共訳「発展途上国における港湾の諸問題」 三村 真人

- Port Costs and the Demand for Port Facilities 織田 政夫

[SUMMERIES]

Some Problems on Physical Distribution Cost through the Marine Terminal

Yoshizo Nagao

Despite the susceptibility for the demand elasticity to the productive and consumptive activity, the quantitative analysis for the physical distribution cost (PDC) is not generally carried out. On this paper, its causes of cost growth and its mechanics are explained with the fact that the PDC at the marine terminal takes many parts in the total PDC, by the multiple model study. The problems on the external economy are discussed over the internal rationality for the physical distribution and the necessity and the argument process of the realization to the optimum of the social welfare function.

Besides, it is strongly expressed in this paper that rationality of each subsystem is considered, but the recognition of the total PDC system on the marine terminal is weak. If those matters are renovated, the PDC is lower than the present condition. Therefore, it is necessary that each enterprise, central or local government organization is renewed and various charge or tariff is reformed. In addition, this paper expresses the consideration about the regional redevelopment that contained the external economy and diseconomy problems.

The Role of Sea-Port Terminal and its problems of National Commodity-Prices

Hisashi Azuma

1. Present problems of port planning policy and their historical process.
2. How to approach port organizations in the future.
3. New settlement of port policy and their exemplification.

A Study Note of Price Changing Connected with Port Economy

Manabu Yamamura

There are many reports that economic growth is closely connected with port economy, but study notes as this title are only a few.

In this report, I bring first to some important problems of physical distribution.

Secondary, certify the process of changing in price connected with port economy, and then analyze the contemporary problems.

Finally, imply international price changing problems.

The citizens and changes of the Economic Policy on Japanese Ports —with relation to the prices of commodities—

Isao Tomita

1. A prologue
2. Characteristics of current problems on the prices of commodities and the Mixed Economic System
3. Prices-making and Port charges
4. The port transportation undertaking and a change of the Economic Policy for Ports
5. Epilogues

An aim at this paper is to inquire into the distance of the Economic Policy to Ports. In this case from viewpoint of optimum allocation on resources, it has been to make refer to a rate policy with relation to the prices of commodities.

Port policy under Yuan Dynasty

Fujio Chisuwa

Yuan Dynasty formulated the most wide districts and created the most unique institutions over the world in 13th A.D. It hold the sovereignty over East Asia, especially China, contrarily their families who had constructed the countries so called Khan provinces in Southern and Central Asia, Near East, and East Europe. Yuan Dynasty had developed ports and harbors according to their political, financial and

socio-economic needs.

Port policy under the Yuan Dynasty would tell us the face of Chinese social structures in that day, then it was analysed the systems and institution of the law issued by the dynasty and real historical accidents.

The thesis which goffered will consist of two parts. The Part I will be written for the preface, the report from The Travels of Malco Polo concerning the water Transportation in China under the Yuan Dynasty, and the foreign trade controling system of that dynasty. Part II will be prepared for the analysis of political, financial and social needs of ports and harbors in that day's China.

Outlines of the official ports in the Ancient Japan

Takayuki Okutomi

In the Midieval Japan, each shō faced to sea-shores had their own ports, so I called them "Shi-shin" (private ports). Compared to them, in the Ancient Times, most of ports were constructed, ruled and re-constructed by officials under the Ritsuryō systems. So, I named them "Kan-shin" (official ports).

"Kan-shin" were settled by "Dajō-kan" (the Chief office of the Ancient Japan); constructed mostly by "Zo-Funase-Shi" (the special office for constructing ports and port services); and were ruled by "Dajē-Kan" through "minbu-sho" (the office for the peoples lives). But most of "Kan-shin" were regurated to be ruled by "Koku-shi" (the local ministers under the "Ritsuryō system").

"Kan-shin" were classified to the two national ports, "Kokuhu-no tsu", "Gun-no-tsu", and "Go-no-tsu". The greatest two of "Kan-shin" were regurated that who would pass through them should have "Kasho" (the passports).

Moreover, in the midieval Japan, ports were governed by "Shōen Ryoshū" (Lord of manors). On the other hand, in the ancient times, most of the ports were governed by the "Ritsuryō" Government.

Ancient Ports in Aegean Sea

—An Introduction—

Genichiro Takami

1. Aegean Sea as a historical background

Natural structure of the Aegean Sea and the reason why human being could go out to vast sea area in so early time as 9000 B.C. Visible sea route from island to island, weather and wind. Ancient Greek natives around the sea and the structure of their trade.

2. Ancient port of Dalos

An age of Homeros: Ruins of Dalos which leaves "le Port Sacree", "le Port Marchand" and ancient city around the shrine of Apolon. Characteristic of the port:

- a) Round port.
- b) Having primitive mooring stone structures.
- c) Ship Shed in Greek age.
- d) Roman quay which was borne in the ancient Greek round port, it's reason.
- e) General characteristic of ancient ports.

The actual state of the port Administration in Ishikawa Prefecture

—12 distribution ports exist in Ishikawa Prefecture—

Muneaki Ohne

The cargo dealt with at these ports in 1974 amounts to 4.44 million gross tons.

Compared with the case of the other prefectures, the charge for the port facilities of Ishikawa Prefecture is lower and equivalent to about one tenth of the other prefectures. The revenue from the charge was about 80 million yen. The charge was raised a little in May of 1975.

The staff of the ports is lacking. As the staff belongs to the Construction section, it often takes time to make decisions on the important problems concerning the port administration.

Constructions and administration of ports are under the direction of the nation.

It is not easy to get the informations about the actual state of the port administration in the other prefectures.

As the other problems, stiffened local financial conditions, the difficulty in getting the consensus of local opinion, adequate uses of port sites, standard of the prosperity

and safty in ports and the lack of understanding of ports among the prefectual people must be taken into consideration.

Leisure Problems on Seamen and Plan of Welfare Policy on Port

Yoichi Shinohara

Plan of welfare policy on port has been main contents that is the accomodation for seamen to see their family, and the medical facilities to maitain a health for seamen.

Recently, seamen's place of residence has become to concentrate in big port cities, and the number of yearly vacation out of board has been increased to 70-102 days in 1975.

On such tendency of seamen's life conditions, plan of welfare policy on port is required to change on a point of view as a leisure life of seamen.

As a way of these changes, we are putting forward to build "the Seamen's Leisure Center" at main ports.

Some Relations between port and price —a situation of port about price formation—

Etsuko Shibata

1. Value and price on the port.
2. Connection between the cost of physical distribution and the goods price.
3. The accumulation cargo have influence on the price.

編集後記

港湾を社会科学の面より研究するということは、ある意味で実際に港湾が経済・社会の中でどのような動きをしているか、またはどのような役割をもっているのかということの事実関係を見ることがある。こうした事実関係を経験科学としてみるとことによって、これから港湾が経済・社会の中でどのような「あり方」をすべきかという政策と人間的問題が出てくる。

こうした問題意識に立って考えてみると今年度の共通論題である「港湾と物価問題」は、きわめて本質的な課題であると共に、またきわめて難しい論題であると思う。周知のように「経済成長」期をはさんで、わが国の港湾は巨大な投資によって急ピッチな造成が進められてきたものの、その効果が本来ならば、何よりも国民の生活にとってなんらかの形があらわれるはずのものである。しかしながら、物価は依然として高騰をつづけてきている。この辺に港湾機能と物価問題についての素朴な疑問がでてくるし、両者の事実関係については殆んど従来不間に付されてきたことに気付かされる。したがって、今後の政策的な課題についても煮つめられたものがあるとはいえないのが現状でもある。この年報は、そのような基本的にして難解な問題を手がけたことは有意義なものといえよう。

自由論題にしても、今回は、史的な面からの論文が多いことは、経験科学としての本質的な方法論を示すものとして意義深いと思われる。一方、本年度も昨年と同様に執筆希望者が多く、共通論題が10名、自由論題が10名と計20名をかぞえるに至った。しかし、原稿締切りの段階においてやや減少してしまったのは残念でもあり、年報編集の面でもいろいろのとまどいを感じたが、これは、研究者の底辺の広がりと関心の深まることを意味するもので喜ばしい次第でもある。もともと年報編集や発表プログラムの上でも、本学会は何らの制限を加えることなく、各位の自由な希望を尊重し開かれた場を提供してきた。このことが、今後の学会発展や年報の質的向上にむすびつくことを念ずる次第である。

終りに、この年報が、その開かれた場において、今後とも経験科学としての本質的な課題に取り組んでゆけることを願うと共に、御多忙の中を原稿を寄せて下さった方々や出版事情の悪い中で本年報の刊行に努力をして下さった成山堂書店にお礼を申しあげなければならない。

Aug. 1975

(文責、荒木)

編集委員（A, B, C順）

荒木智種 小林照夫 松永嘉夫 柴田悦子 徳田欣次 玉井克輔 富田功（事務局）

◆日本港湾経済学会のあゆみ

1962年	創立総会および第1回大会開催	(横浜港)
1963年	第2回大会(東京港)	共通論題(港湾投資の諸問題)
1964年	第3回大会(神戸港)	共通論題(経済発展と港湾経営)
1965年	第4回大会(名古屋港)	共通論題(地域開発と港湾)
1966年	第5回大会(新潟港)	共通論題(日本海沿岸における港湾の諸問題と将来)
1967年	第6回大会(北九州・下関港)	共通論題(輸送の近代化と港湾)
1968年	第7回大会(小樽・道南諸港)	共通論題(流通体系の齊合性と港湾の近代化)
1969年	第8回大会(大阪港)	共通論題(大都市港湾の諸問題と将来)
1970年	第9回大会(清水港)	共通論題(流通革新と埠頭経営)
1971年	第10回大会(横浜港)	共通論題(広域港湾と港湾経営の諸問題)
1972年	第11回大会(神戸港)	共通論題(輸送システムの変革と港湾運営)
1973年	第12回大会(名古屋港)	共通論題(港湾の近代化と地域経済・社会)
1974年	第13回大会(長崎港)	共通論題(地方港湾の役割と課題)
1975年	第14回大会(千葉港)	共通論題(港湾と物価問題)

港湾と物価問題

(『港湾経済研究』No. 13)

定価 2200 円

1975年10月15日 印刷
©1975
1975年10月18日 発行

編者 日本港湾経済学会

横浜市中区山下町279の1地先
(横浜市山下埠頭港湾厚生センター)

(財)港湾労働経済研究所

気付

日本港湾経済学会事務局

TEL 045-641-2556 〒231

発行者 館成山堂書店

代表者 小川 賀

印刷者 鎌倉印刷株式会社

発行所 株式会社成山堂書店

東京都新宿区南元町4-51(〒160)

電話 03-357-5861(代)

振替口座 東京78174番

(分) 3056 (製) 24026 (出) 3819

港湾研究シリーズ（全10巻）

① 港湾総論

北見俊郎著

シリーズの「総論」として、港湾の全貌をとらえ、これを理論と実態の二面から集大成した。社会科学的広さと手堅い論理構成によって、港湾が直面する大きな問題を理論的に分析すると共に将来のあり方をも示している。

¥3800

② 港湾発達史

北見俊郎編著

港湾一般ならびに関連分野と本邦における種類別主要港湾の事例を通じて、港湾の存在が占める役割を解明するとともに、歴史的見地からの現代港湾の動向と問題点をも明確化しようと企画するものである。

近刊

③ 港湾経済

柴田悦子著

港湾経済の研究は、資本主義経済、社会の全体を把握しなければならず、本書はそうした広い視角と資本主義経済、社会の法則性といった本質的問題意識によって一貫されている。

¥1500

④ 港湾経営

北見俊郎著

山本和夫著

港湾を経営体としてつかみ、その中における経営上の原則をあきらかにすると共に将来の港湾経営の原理論を構成しようとする。さらには、日本のなポート・オーソリティのための論理構成にも及ぶ予定である。

近刊

⑤ 港湾産業

喜多村昌次郎著

港湾の経済、社会的機能を媒体として成立する港湾関係諸企業の現状をふまえながら、これら諸企業の複合体がやがて、「港湾産業として脱皮するについて、必要な諸条件を展望し、考察したものである。

¥1500

⑥ 港湾労働

徳田欣次著

港湾労働を取りまく諸条件と、その実態を明らかにし、その上で将来展望を行ない、近代化の道程を示唆したい。
従来港湾労働の究明は6大港を中心としたものが多いが、地方港の問題も導入。

近刊

⑦ 港湾社会

北見俊郎著

荒木智種著

港を人間と社会の場としてみると、今まで考えられていないかった世界をできるだけえがこうとしている。ジャーナリズム、情報問題をふくめ、情報化社会の港湾機能のあり方をもさぐろうとする。

¥2500

⑧ 港湾行政

和泉雄三著

現代の行政が、豊かな国民生活の形成という具体的課題を担うものであれば港湾においてもかかる将来展望に立って当面する諸問題を解明することが緊要である。このような視点から、港湾行政の現状と問題点を概観する。

¥2200

⑨ 港湾と地域

柘幸雄編著

新しい社会経済地理学的側面から、理論的かつ実証的具体的に、現代日本の港湾の形成とその役割とを分析し解説した。
理解を便にする意味から新製のものを含む多くの地図類を随所に掲載した。

近刊

⑩ 港湾流通

北見俊郎編著

喜多村昌次郎著

流通の合理化を前提として、港湾が一方においてそうした要求をうけながら、一方では、要求に合う生産性を内側から求めようとする諸問題を「研究シリーズ」各巻の執筆者が、共通の問題意識によって書いた論文集である。

¥2200

海運・港湾関係図書案内

港湾運送と港湾管理の基礎理論	住田正二著 A5・296頁・1200円
流通革新と埠頭経営	日本港湾経済学会編 A5・320頁・1250円
現代港湾の諸問題	日本港湾経済学会編 A5・472頁・3000円
輸送システムの変革と港湾	日本港湾経済学会編 A5・300頁・1800円
港湾と地域経済・社会	日本港湾経済学会編 A5・372頁・2500円
地方港湾の役割と課題	日本港湾経済学会編 A5・252頁・2500円
港湾運送例規集	運輸省港湾局港政課編 A5・416頁・1800円
港湾運送事業法論	市川猛雄著 A5・288頁・1600円
港湾新書 港湾流通の実務	運輸港湾産業研究室編・新書・220頁・750円
港湾新書 港湾情報産業の実務	港湾総合研究所編 新書・258頁・980円
港湾運送事業法ノート	森山芳樹著・新書・220頁・850円
新訂 海運の概要	岡庭博著 A5・260頁・1800円
海運	東海林滋著 A5・360頁・2800円
世界海運史	黒田英雄著 A5・364頁・1800円
コンテナの輸送実務	松本好雄著 A5・256頁・950円
国際海上コンテナ輸送をめぐる12章	高村忠也編 A5・290頁・1500円
コンテナ輸送の理論と実際	飯田秀雄著 A5・336頁・1500円
コンテナ輸送の原点	飯田秀雄著 A5・246頁・1800円
海陸複合輸送の研究	飯田秀雄著 A5・270頁・1500円
マリーナ(ヨット・モーターボート留置施設)	西田幸男著 A5・166頁・950円
海運同盟入門	塚本揆一著 A5・310頁・2200円
海運経済論	織田政夫著 A5・392頁・3500円
船舶の衝突と海上保険	今泉・坪井共訳 A5・336頁・2500円
長距離フェリーの診断	安原清著 A5・160頁・950円
コンテナへの積付実務	山下新日本汽船海務部編 A5・196頁・1200円
冷凍コンテナ便覧	上村建二著 A5・420頁・3500円
ラッシュ船の研究	加藤信光著 A5・276頁・2200円
英文海法集	東京海上火災保険海損部編 A5・504頁・6000円
物流事業—明日への展望—	大塚秀夫著 A5・176頁・1300円
コンテナ用語辞典	日本海上コンテナ協会編 A5・432頁・4500円 コンテナ用語辞典編纂委員会